



オリーブニュース

北海道特別教区女性の会（オリーブの会）第12期 第4号

代表 近藤雅子

2014年4月10日発行

メッセージ・「イエス様の重荷・使命を、イエス様と一緒に担い続けていけるように

聖霊の助けが豊かにありますように」

女性会担当牧師：坂本千歳

今、日本の農業はほとんどが機械化されていますから、私たちが軛を目にすることはめったにありませんが、イエス様の時代、軛は日常的によく用いられる農具でした。

「わたしの軛は負いやすい」とイエス様はおっしゃっています。「負いやすい軛」とは、どんな軛でしょうか？それは、熟練の技を持つ職人が丁寧に作った軛です。イエス様は大工でした。当時の大工さんは、家具や農具を作ることが多かったようです。きっとイエス様はこれまでにいくつもの軛をご自分の手で作ってこられたことでしょう。村の人たちから頼まれると、家畜が楽に背負えるように、しっかり仕事ができるようにと工夫しながら、一つ一つの軛を、丁寧に仕上げたに違いありません。言ってみれば、イエス様の丁寧な手仕事によって一つ一つ手作りされた特注の軛を、私たちは背負っているのですね。

さて、当時の軛は、一本の横木に二頭の家畜をつないで使用するものが多かったようです。ですから、イエス様が「わたしの軛を負いなさい」というとき、それは私たちが、たった一人で全ての荷物を担わされるということではありません。二頭立ての軛の片一方には私がいて、そしてもう片方にはイエス様がおられ、パートナーとして一緒に荷物を引いてくださいます。私たちは決して孤軍奮闘しているわけではないのです。二頭立ての軛ですと、両方のバランスが大切になってきます。私の歩みが遅くなったときや立ち止まってしまったときでも、もう一方を担いでくださるイエス様は、一緒に進めるように私たちをフォローしてくださいます。私たち歩く速度、私たちが負える荷物の量が、一人一人それぞれにあるということをイエス様はちゃんと分かってくくださる方です。周囲が何と言おうと、自分らしく、一生懸命に、一歩ずつ歩いていきましょう。周囲の目を気にしすぎて、他人に合わせすぎて、疲れて、ダメになるなんて、もったいないことです。

最後に、私たちは、自分がイエス様と同じ荷物を背負っていることを、どれだけ意識しているでしょうか？「私の荷物、私の重荷、私の苦労、私の仕事」を、イエス様が一緒に負って下さっていると、大抵、私たちは認識しているのですが、それだけではなく、私たちもまた「イエス様の重荷・荷物」を背負っているのです。イエス様と私の荷物は一つ、イエス様の重荷と私の重荷は同じ、イエス様の使命と私の使命は一つです。「イエス様の重荷を私もまた背負わせていただいているならば、しっかり背負いたい」と、私たちが受け止め、引き受けた時に、イエス様と私たちの重荷・使命は、同じものになっていくのでしょうか。

北海道特別教区女性の会が、これからもイエス様の重荷・使命を、イエス様と一緒に担い続けることができるよう、聖霊の助けが豊かにありますように。



世界祈禱日に参加して

札幌教会 野口 英子

当番教会として世界祈禱日に出席するのは今回で3回目です。とはいえ千葉県と静岡県に住んでいた頃に出席した1、2回目と同様、今回も事前の準備などにはほとんど関わらず、当日にほんの少しお手伝いさせていただいただけなので、こうした場で書くことは大変僭越な感じがしております。ただ一出席者として、この日いただいた恵みを皆さんとお分かちできれば幸いです。

自分たちの教会堂ではなく、北一条教会をお借りしての開催ということで多少の不安がありましたが、事前に婦人会の役員の方々や担当の方々が周到な準備をしてくださっていたので、私はその指示通りに安心して献金と会場案内のご奉仕をすることができました。

私は会場案内係りとして参加される方々を席まで案内しつつ、広い会堂の席が徐々に埋まっていく様子を見て、「見よ、兄弟が共に座っている。なんという恵み、なんという喜び」という詩篇の一節を思わずにはいられませんでした。300名近い方々が教派を超えて共に祈るという貴重な機会がこうして続けられていることを感謝するばかりです。

今年のテーマは「エジプトからのメッセージ 砂漠を流れる水のように」ということで、エジプトおよびアラブ世界におけるキリスト者の存在について考える機会となりました。

式文に書かれていた「砂漠を流れる水のように平和と正義がほとばしるのをキリスト教徒とイスラム教徒の若者たちが、いつの日か見ることができるように祈ります」との祈りの言葉が今も心に残ります。

またイエスと出会ったサマリアの女と同じように、私たち一人一人にも与えられた命の水を携えてそれぞれの置かれた場で生きるよう招かれていることを深く覚えさせられました。

広く世界に目を向けさせられると同時に、今自分の目の前で顔を合わせている人々とどう関わっていくのかを問われる場に集うことができた恵みを心より感謝しています。

*札幌地区の世界祈禱日は13教派の38教会と3団体の291名が参加して、日本キリスト教会札幌北一条教会を会場に行われました。札幌教会は17年振りのお当番でした。

帯広も世界祈禱日の当番教会の責任を担いました。

帯広教会 岡田ひとみ



入学のシーズンとなりました。3月の世界祈禱日のことを皆さんにお話しするには色々忘れてしまっただけで申し訳ない気持ちですが・・・雪の少ない帯広ですが、少し寒い日でした。

思いがけず当番が廻ってまいり受けることになりました。

私は司会を仰せつかり、いつもより式文を読み込み、讃美歌も練習して当日に望みました。教会員の方々も、出席のために休みを調整して下さったり、準備の為の時間を作ってくださいました。

私は聖壇の横側に立ち、いつもより多い出席者を心を落ち着けて見渡すことが出来ました。

私にとってキリスト者との交わりの時は、いつも大切なそして心安らぐ時です。

2人から3人いる時は、真ん中にキリストがいて下さるからです。祈禱日は日本中、世界中の人々がこの式文を通して一つになって礼拝を守っているのです。本当にすごいことだと思いました。そしてこのように、私の知らない世界のことを取り上げ、キリストのまなざしがどんな所にも届いているのだとあらためて思いました。他教会との交わりの時にも、いろいろな思いを受けることが出来良かったと思います。

牧師をはじめ教会員全員で受けた当番でしたが、私にとっても良い一日を過ごすことが出来たと思います。

2014年度 教区内各女性会の会員登録数などと役員名

	札幌教会婦人会	函館教会「野の花の会」	帯広教会「すずらんの会」	合計
会員数	22	18	11	51
教区登録数	15	11	9	35
登録外オリーブ希望数	7	1	0	8
連盟登録数	10	8	0	18
登録外連盟会報希望数	12	1	2	15
年会費	3000円	4800円	800円	
役員： 会長	栗原朋友子	村上典子	岡田ひとみ	
副会長	近藤雅子			
書記	大賀美紀子	泉 美和		
会計	佐藤順子	佐谷南美子	小林世津子	

教区役員：代表&書記 近藤雅子、副会長 栗原朋友子、書記&会計 大賀美紀子

協力委員：ルーテル昆布会計 梅原裕子、チャイルドファンドジャパン 松島直子

会計監査：須藤幸子（函館）、奥貫せつ（札幌）



担当教職：坂本千歳牧師（帯広教会）

連盟の年会費 2600円、教区の年会費 1000円。会員を繋げ、会を運営する為の大切な会費です。

チャイルドファンドジャパンの里子支援献金（現在、エライサちゃんを支援中）は年間 700円以上でお願いしています。連盟・教区への感謝献金や特別献金への御協力もお願い致します。

5月中旬が前期の会費等納入となっています。

CFJのお便りから

昨年11月、フィリピンは観測史上最大の勢力をもつ大型台風「ハイエン」に見舞われ、甚大な被害に遭いました。500万人の子どもたちを含む被災者数は1000万人以上とCFJから緊急支援の依頼文書が届き、昨年皆様が祈りつつ寄せて下さった里子支援が1年分の支援金48000円を超えて集ま

りましたので、感謝と共にこの支援に応じ1万円を窓口に送金しました(2/12 合同役員会時に決定)。
私たちの里子、エライサ・バドゥワちゃんの住む地域は30号の被害は受けなかったのですが、10
月の25号に被災。家の周囲の電線が切断、屋根の一部が壊れ、CFJ等の復興支援で修復したそう
です。

エライサちゃんはことし、2年生になります。

<今年度の計画から>

*本年11月に教区女性の会の総会を開きます !!

次の総会は現行規約の2年毎でいうと2015年2月開催が予定となりますが、厳寒期の吹雪やJRの運行の支障、雪まつりと重なる時期で宿が取りにくい等、困難が多いと感じてきました。そんなことから役員会は、降雪前の11月に変更しては如何と協議し、今年2月12日の合同役員会(各女性の会役員と教区役員合同の会議)に諮ったところ、次回総会の決定前に、試行的に変更してみようと決心し、只今、この日程で準備中です。

これにより、会計決算を8月締め(つまり会計年度を9月から8月までとする)で報告、

改選する新役員の任期は明けて翌年(2015年)の1月からとすることで進めます。

* 総会では各報告の他に、次のことを審議予定です。

- ①規約改正=役員任期を3年、総会開催3年に一度、11月開催
会計年度9月から8月まで。役員は会長・書記・会計。
総会正議員は女性の会会員であること。
準議員は休会女性の会からの個人入会者。
- ②内規として慶弔規程と旅費規程を置くこと。
- ③第13期の役員選出
- ④活動案と予算、その他

*今年は昆布研究の年にします !!

- ①厚岸訪問昆布ツアー(8/23)と.....ご案内を5月役員会后送ります。

一緒にルーテル昆布の生産地を訪ねませんか

拡大役員会(8/24)を帯広で開催

- ②昆布レシピを募集して、ルーテル昆布便利帳(?)を作って昆布と一緒に送ります。

す。



私の意見:

帯広教会=石田リツ子

<伝えること> 主のみ名を讃美致します。先日の教区総会の休憩の時です。数人でおしゃべりをしていました。昨年の研修会以来考えていた事を話してみました。教会の存在を知り、来て頂くためにどんな事に取り組まれているのかという事です。1年間の行事はあっという間に過ぎてしまいます。クリスマス等行事に来られる方は居られますが、礼拝まではなかなか繋がりません。牧師の伝道ではなく会員が出来ることは何か、会員だけの内向きの働きではなく、地域に根ざした

外へ向けた働きはどんなことが出来るのか、各教会ではどんなことをされているのかなど等、お聞きしました。その場では答えはなく、オリーブの会への原稿にしてはと進められ書いてみました。どの教会の会員も考え、実践されていることもあるかと思います。お教え頂ければ幸いです。

まずは權より始めよなのですが・・・

これからの予定

5月14日(水)9時半 第5回役員会 於：札幌教会

編集後



記:.....:連盟の先輩から翻訳され送られてきた手紙は 1998 年サバ神学院院長と共に来日、各教区女性の会の集いを訪問された当時神学生のイエン氏からのもの。今は1千人規模の教会で聖日に高齢者や子ども・青年・成人礼拝を計7回持ち、他に貧困家庭の手助け・シェルター計画・訪問牧会など、小学校教師の夫人の協力も得てのお働きに胸が熱くなりました。函館教会で交流会・、函館山の夜景も道内女性達と楽しんで下さいました。1999 年秋の卒業式時、誇らしげに婚約者を紹介して下さいましたイエンさんは、今や立派な働き人としてまた女性会連盟のサバ神学生支援の証し人であることを伝えて下さいました。日本とマレーシア、遠く離れていても、互いにパートナーとして“主のくすしきみわざの讚美”に努めることは、私たちの心に多くの実りをもたらしてくれることでしょう。支援献金を捧げる時、思いを馳せて下さいますように。(MO 記)